

第16回
**非
戦**

ひょうがむよう

兵戈無用・戦争は戦争の顔をしてこない

**平和
展**



真宗大谷派
東本願寺
shinshū Otani-ha
Higashihonganji

www.higashihonganji.or.jp

開催にあたって

私たちの宗門は、明治期以降、宗祖親鸞聖人の仰せになきことを仰せとして語り、戦争に協力してきました。侵略戦争を「聖戦」と呼び、仏法の名のもとに、多くの青年たちを戦場へと送り出しました。そして遺族のみならず、アジア諸国、とりわけ中国、朝鮮半島の人々に、計り知れない苦痛と悲しみを強いてきました。さらに、非戦を願い、四海同朋への慈しみを説いたために、非国民とされた僧侶たちを見捨ててきました。その罪責を慙愧する教団として自らに使命を負う責任があります。

その時に確認すべきことは、集団としての教団ではなく、個の自覚に基づく教団であらねばならないということです。

昨年9月19日未明、安全保障関連法案が参議院本会議で可決、成立しました。これで集団的自衛権の行使が可能になり、他国軍への後方支援や平和維持活動という名のもとに様々な任務が広げられていくことになります。

関連法案を成立させた、数の論理でまかりとおる政治や「お任せ民主主義」を容認してきた我々の有り様に気づき、自分で考え、「一人」としてものを申していく。その根本において宗憲前文に掲げる「同朋社会の顕現」の具現化、すなわち社会で起こっているさまざまな事象を凝視し、関わり続けることによって、争いがない世界、皆が平等に生きることのできる世界を顕現し得るのではないかと思う。

このたびの法会では、釈尊の「兵戈無用(兵隊も武器もいらない)」(『仏説無量寿經』)の世界を願い、「戦争は戦争の顔をしてこない」という危機感なき危機に晒されている我々が、いかに「個」を持つことが重要であるかを思念し、そしてすべての人びとがこれから社会を展望できるような機縁にいたしたいと思います。

2016年4月

真宗大谷派(東本願寺)宗務総長 里雄 康意

本展の開催にあたり、所蔵者をはじめ、関係諸機関、関係諸氏のご協力、ご助言に加え、展示協力をいただきました。ここに記して、心よりお礼申し上げます。(順不同・敬称略)

宮尾 節子	大谷保育園
池田 香代子	大阪教区満泉寺
りばん・ぷろじぇくと	大垣教区福円寺
同朋高校放送部	大垣教区光慶寺
高倉幼稚園	京仏具犬塚

明日戦争がはじまる

まいにち

満員電車に乗つて
人を人とも
思わなくなつた

インターネットの
掲示板のカキコミで
心を心とも
思わなくなつた

虐待死や

自殺のひんぱつに
命を命と
思わなくなつた

じゅんび

は
ばつちりだ

戦争を戦争と

思わなくなるために
いよいよ

明日戦争がはじまる



絵本『戦争のつくりかた』は、決して空想にもとづく作り話ではありません。2003年と2004年に相次いで成立した有事関連法をはじめ、すでに施行されている法律や政令、審査中の法案、国会答弁の内容などをひとつひとつ丹念に読み解いた上でつむいだ「日本のひとつの未来像」を示しています。その際、素人の曲解がないか、法律家の冷静で厳しい目を通してもらうことにも心を配りました。

残念ながらこの本で予言された未来は、着実に現実となりつつあるのではないでしょうか。私たちに残された時間は、もうあまりないのかもしれません。

それでも、まだ道は残されています。私たちが気づき、変えていくことの出来る未来がきっとあります。この国を愛するひとりでも多くの人たちが、「戦争をしない未来を選びとる」ことを、私たちは願ってやみません。

2013年5月 りばん・ぶろじぇくと「この絵本ができるまで」より

「りばん・ぶろじぇくと」と池田香代子さんのご協力により、絵本『新・戦争のつくりかた』を展示いたしました。このパンフレットには絵本から一部を掲載させていただきました。

あなたは戦争がどういうものか、知っていますか？

おじいさんやおばあさんから、むかしのことを聞いたことがあるかもしれません。学校の先生が、戦争の話をしてくれたかもしれません。

話に聞いたことはなくても、テレビで、戦争している国を見たことなら、あるでしょう。

Do you know what war is?

Maybe you've heard stories about it from your grandparents. Maybe your teacher has mentioned war in class.

Even if you haven't heard about war from a grown-up, you have probably seen war on the television.

わたしたちの国は、70年ちかくまえに、「戦争しない」と決めました。

だからあなたは、戦争のためになにかをしたこと�이ありません。

でも、国のしつみやきまりをすこしづつ変えていけば、戦争しないと決めた国も、戦争できる国になります。

そのあいだには、たとえば、こんなことがおこります。

Almost 70 years ago Japan made a promise never to go to war again. So, you have never been involved in a war.

3

But, by changing the way a country works and the decisions it has made in the past, even a country that has promised never to go to war, can become a country that is able to go to war.

During that time, some of the following things might happen.

わたしたちの国を守るだけだった自衛隊が、
武器を持ってよその国にでかけるようになります。

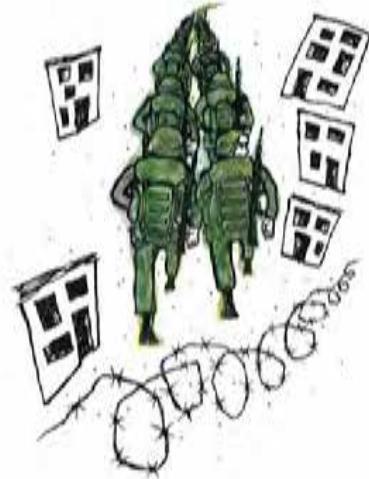
世界の平和を守るため、
戦争で困っている人びとを助けるため、と言って。

せめられそうだと思ったら、先にこっちからせめる、
とも言うようになります。

The Self-Defense Forces, which were only meant for the defense of Japan, will go with guns to other countries.

They'll say that they are going to save people hurting from war so that they can keep peace in the world.

They'll also say that when it seems like they'll be attacked, they'll attack first.



戦争のことは、
ほんの何人かの政府の人たちで決めていい、
というきまりを作ります。

ほかの人には、
「戦争することにしたよ」と言います。
時間がなければ、あとで。



A rule will be made that says everything about war will be decided by only a small group of people in the government.

They'll say to other people, "We've decided to go to war." And if there isn't enough time to say even that, they'll tell us about it afterwards.

政府が、

戦争するとか、戦争するかもしれない、と決めると、
テレビやラジオや新聞は、
政府が発表したとおりのことを言うようになります。

政府につごうのわるいことは言わない、
というきまりも作ります。



When the government decides that we will go to war or that we might go to war, the newspapers and television and radio will report it exactly as the government says.

It will also be decided that they'll never say anything that the government doesn't like.

戦争が起こったり、起こりそうなときは、
お店の品物や、あなたの家や土地を、
軍隊が自由に使える、
というきまりを作ります。

いろんな人が軍隊の仕事を手伝う、というきまりも。

たとえば、飛行機のパイロット、
お医者さん、
看護師さん、
トラックの運転手さん、
ガソリンスタンドの人、
建設会社の人などです。

It will be decided that whenever a war happens or is about to happen, the army will be able to use stores, other people's property and even your house however they please.

It will also be decided that many people will help the army do their work.

People like airplane pilots, doctors, nurses, truck drivers, gas station attendants and construction workers.

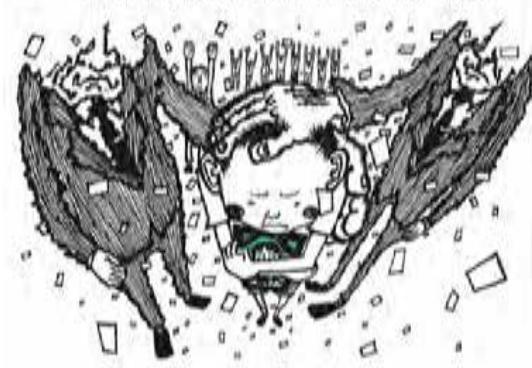


とうさんやおかあさんや、
学校の友だちや先生や、近所の人たちが、
戦争のために死んでも、悲しむことはありません。

政府はほめてくれます。
国や「国際貢献」のために、いいことをしたのですから。

You don't have to be sad when your father or mother, school friends or teachers or your next-door neighbors die in war.

The government will be proud of them. Because they did a good thing for the country and for the world.



もしあなたが、「そんなのはいやだ」と思ったら、
お願いがあります。

ここに書いてあることが
ひとつでもおこっていると気づいたら、
おとなちに、
「たいへんだよ、なんとかしようよ」と
言ってください。

おとなは、「いそがしい」とか言って、
こういうことになかなか気づこうとしませんから。



If you don't like what you have just read, we would like you to do something.

If you notice any of the above things happening right now, tell a grown-up, "This isn't good! We have to do something about this!"

Because grown-ups are often very busy and don't notice things like this.



わたしたちは、未来をつくりだすことができます。

戦争しない方法を、えらびとることも。

We can choose our own future.
We can also choose not to go to war.

仰せになきことを仰せとして —近代真宗大谷派の戦争への歩み—

はじめに

明治期以降の私たちの宗門には、宗祖親鸞聖人の「仰せになきことを仰せとして」語り、戦争に協力してきた歴史がある。当時の社会や宗門において、「戦争は戦争の顔をして」来なかった。戦争へ民衆が動員されていく体制が日常生活の中で徐々に整えられていった状況を、史料を通して紹介する。「近代真宗大谷派の戦争への歩み」の歴史に向き合い学ぶことを通して、「兵戈無用（兵隊も武器もいらない）」（『仏説無量寿經』）の世界である非戦・平和への願いを私たち一人ひとりが確かめていきたい。

I. アジアにおける真宗大谷派の開教活動

明治初頭から、真宗大谷派のアジアにおける開教活動は、明治政府によるアジア大陸への侵略政策の動きと相まって進められていった。本章では、新たに見つかった「朱印状」や「宣伝ビラ」等の史料から、開教地での活動の一端を紹介したい。

中国への開教は、1873(明治 6)年に大谷派僧侶の小栗栖香頂が、7月に上海へ、9月に北京へ赴いたことに始まる。1876(明治 9)年 6 月に上海別院を創設。1881(明治 14)年 8 月、上海別院を北京に移し、上海には北京別院出張所を設けた。その後、中国布教は一時的に中断されたが、1885(明治 18)年 11 月、上海別院の呼称が再び用いられることとなった。1912(大正 1)年 1 月には上海別院内に清国布教監督事務所が設置された。1917(大正 6 年)1 月には、旅順(現・中華人民共和国遼寧省大連市)に布教所[史料 4]が開設された。北京に別院[史料 5]が開設されるのは、1937(昭和 12)年、日中戦争最中の 11 月のことである。

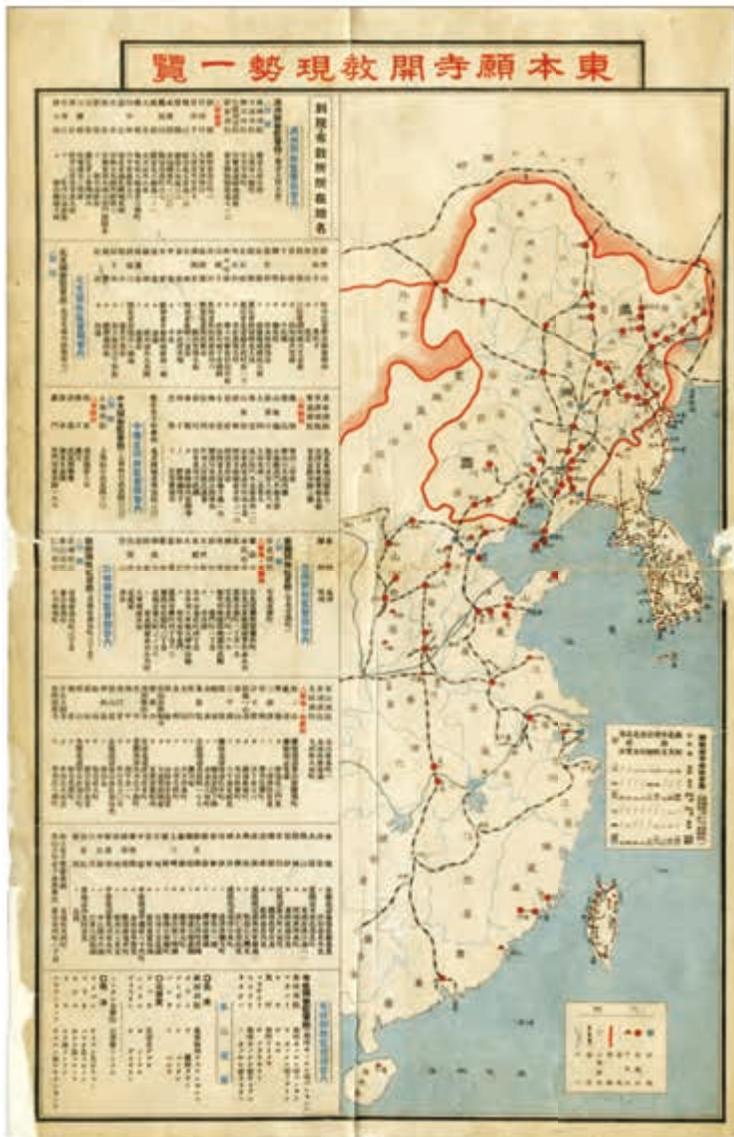
朝鮮への開教は、1877(明治 10)年に、奥村円心・平野恵粹が釜山(現・大韓民国釜山広域市)へ派遣されたことに始まる。翌 78(明治 11)年 12 月、朝鮮国本願寺出張所を釜山別院と改称し、奥村円心が輪番となる。1881(明治 14)年 4 月、元山津説教所(現・朝鮮民主主義人民共和国元山市)にて落慶遷仏法要が執行された。そして 1886(明治 19)年 6 月には釜山別院の支院となった。さらに 1901(明治 34)年 4 月、釜山別院元山支院を元山別院と改称した。1886(明治 19)年 6 月、朝鮮国仁川港(現・大韓民国仁川広域市)に釜山別院支院が開設された。そして 1900(明治 33)年 2 月 26 日、京城別院仁川支院から仁川別院に改称されている。

1890(明治 23)年 7 月 16 日、釜山別院京城支院(現・大韓民国ソウル特別市)が開設され、1895(明治 28)年 2 月 7 日に釜山別院京城支院を京城別院と改めた。また、1910(明治 43)年 8 月、浦項布教所(現・大韓民国慶尚北道浦項市)が設立されている。

日露戦争の結果、1905(明治 38)年に樺太(現・ロシア連邦サハリン州)の南半分が日本領土となって間もなく、真宗大谷派は樺太開教掛として藤原数馬を派遣し、樺太に布教所を設置した。1914(大正 3)年 8 月、豊原(現・ユジノサハリンスク)に樺太別院を創立した。

開教地へは別院・布教所が設立されていき、布教使が派遣された。別院などの建設に際し、日本の仏具商が莊嚴を担当した[史料 5]。アジア各地に設けられた別院・布教所が発行した朱印状[1925～26(大正 14～15)年]が残されており、当時の日本人参拝者に向けたものとみられる。

このパンフレットには、第16回非戦・平和展における展示史料から一部を抜粋して掲載しています。史料の番号は、展示史料の通番を用いています。



3. 東本願寺開教現勢一覽

1939(昭和 14)年 11月

『真宗』1939 年 11月号

『真宗』1939 (昭和 14) 年 11月号に掲載された「東本願寺開教現勢一覽」。東本願寺(大谷派)による、満州・中国・台湾・朝鮮・ハワイなどの別院・布教所の所在地名一覧と、開教状況が分布地図によつて示されている。



4. 東本願寺旅順布教所朱印状

年未詳 教学研究所蔵

東本願寺の旅順布教所(現・中華人民共和国遼寧省大連市)が発行した朱印状。旅順布教所が設立された 1917(大正 6年)1月 8日以降の作成と思われる。「旅順朝日町通白玉山麓、東本願寺、電話二四八番地」とあり、抱牡丹の朱印と「真宗大谷派本願寺旅順布教所」の朱方印が押印されている。



5. 北京東本願寺別院感状

1940(昭和 15)年 2月 10日 京仏具犬塚蔵

「皇紀 2600 年 2月 10 日付」で、北京東本願寺別院輪番の宮谷法含から、北京東本願寺別院の宮殿・須弥壇をはじめとする莊嚴の新調を担当した、仏具商の犬塚喜三に宛てて出された感状。北京別院は、1937(昭和 12)年の日中戦争を契機に創設された。当初は莊嚴が整えられなかつたため、皇紀 2600 年を期し新調した。「奉仏開教ノ信念」をもつて、「背私向公ノ大道ヲ実參」することが別院設立の目的とされていた。

宮殿・須弥壇などを新調した際、撮影された集合写真。後列左から 3 人目の背広姿の男性が犬塚喜三。



II. 中国大陸における戦時の取材・報道

1937(昭和 12)年 7 月 7 日に北京郊外での盧溝橋事件をきっかけとして、日本による中国侵略戦争(日中戦争)が開始された。1938(昭和 13)年 11 月 3 日に日本政府は、戦争の目的が日本・満州・中国の 3 国提携による「東亜新秩序」建設にあるとの声明(第 2 次近衛声明)を出し、経済統合の実現を通して「大東亜共栄圏」建設が図られた。1941(昭和 16)年 12 月 8 日、日本はアメリカ・イギリスに宣戦布告し、太平洋戦争に突入していくこととなった。

戦時中、日本政府は中国大陸で多くの新聞記者や作家、画家等に取材させ、現地からの報道がなされた。この章では 1 人の従軍記者が残した史料から、戦時の中国大陸における取材や内地での報道の状況を紹介する。



12.『北京百景』

1943(昭和 18)年 7 月 30 日 大阪教区満泉寺蔵

「大東亜建設の拠点」とされた北京において、1931(昭和 6)年の満州事変後、在留日本人向けに刊行された『東亜新報』で、1939(昭和 14)年に連載されていた「北京百景」をまとめて 1 冊とし、1943(昭和 18)年 7 月 30 日に北京の新民印書館から刊行された。東亜新報社の主筆である高木健夫(高健子)が執筆し、三画家がペン画の挿絵を描いた北京案内書。



14. 中国戦時取材写真貼付綴帳

1938(昭和 13)年～1944(昭和 19 年)頃 大阪教区満泉寺蔵

『北京百景』[12]の挿絵を担当した満泉寺門徒某が、中国戦時の取材写真を収集して貼り付けた綴帳。満泉寺門徒某は、従軍記者として挿絵を描いていたため、その職務上、収集された写真と考えられる。1938(昭和 13)年 3 月 27 日付「支那少年団ノ訓練、我軍ノ進出直後宣撫班ニ依リ編成サレタモノ」(於 太原(山西省))(写真左上)、1938 年 7 月 1 日付「黄河鉄橋開通式 第 1 列車ノ通過」(写真中央上)などの写真が掲載されている。また、壇河(現・中華人民共和国山西省)にて、日本軍が撃墜した中国軍飛行機の残骸と、日本軍人によって建てられた墓標の写真(写真右上)もある。



15. 中国戦時新聞記事貼付綴帳

1944(昭和 19)年 6月 大阪教区満泉寺蔵

1944(昭和 19)年 6月 18 日から 26 日に連載された『東亜新報』の「河南作戦陣中座談会」、同年 6月頃に『東京新聞』で連載された「河南戦線画信」などの記事を貼り付けた綴帳。満泉寺門徒某は東亜新報社の報道班員の一人として、主筆の高木健夫らと共に河南作戦へ従軍し、記事の挿絵を描いた。



16. 中国戦時宣伝謀略ビラ貼付綴帳

(戦時中) 大阪教区満泉寺蔵

戦時中の中国において、謀略を目的に、日本軍の好意性や優位性を中国語と図画で宣伝したビラを貼り付けた綴帳。宣伝謀略ビラは、敵軍将兵や国民の戦意を低下させたり投降をうながすため、あるいは味方の戦意高揚を目的とする内容を、文章や図画で表現したもの。「伝单」、「紙の爆弾」などと称され諸外国の軍隊においても作成され散布された。当時の自国ならびに敵国に対するイメージを読み解きうる史料として重要である。

- ①(写真左上) 蒋介石軍によって破壊された黄河大鉄橋を、4ヶ月で日本が修理し、1938(昭和 13)年 7月 1 日に「黄河大鉄橋修理完成」して開通したことを伝える。なお『中国戦時報道写真貼付綴帳』[14]に、該当写真がある。
- ②(写真右上) 日本軍が、1938(民国 27)年 10月 21 日に広州(広東省)を、27日に武漢(湖北省)を陥落し、華北・華南・華中を完全占領して安定をもたらしたと伝える。

III. 戦争をする町の体制

日本が「東亜新秩序」建設を謳いアジア侵略を進めていく中で、国内においては 1940（昭和 15）年 6 月、全国民を戦争協力に動員する新体制運動が始まった。同年 10 月 12 日には、大政翼賛会が発足した。当初大政翼賛会は、すべての政党が自発的に解散して大政翼賛会に合流するなど全体主義の政党組織を目指していたが、最終的には戦時国民動員のための政府の外郭団体となった。この会は、総理大臣を総裁とする中央本部のほか、道府県、郡市、町村に支部が設けられた。他の団体との混乱も見られたため、太平洋戦争開戦後の 1942（昭和 17）年 6 月には、大日本翼賛青年団、大日本婦人会など 8 団体を吸収し傘下団体とした。

今回資料で紹介する大阪府には大政翼賛会大阪府支部が設置された。翼賛会の傘下団体である大日本翼賛青年団の下部組織として、貝塚町には貝塚町翼賛青年団が設けられ、さらに各地区に班を編成することで、大政翼賛体制が徹底されていった。

一方、1943（昭和 18）年 6 月 4 日に閣議決定された「食糧増産応急対策要綱」では、「労力補給に関する措置」として、①一般市民による「勤労報国隊」の動員、②学徒勤労動員、③食糧増産隊の編成と動員の 3 項目をあげており、食糧増産の名のもとで一般市民、学生への戦争動員が進められた。

このように日本国内において、地域社会の中で徐々に戦争動員への体制が整えられていくこととなった。



17. 大阪府振興課大政翼賛会大阪府支部七月常会資料
1943（昭和 18）年 7 月 1 日
大阪教区満泉寺蔵

常会とは、町内会、部落会、隣組が開く集会。銃後の後援や、防空、食料の配給などを担った。7月常会徹底事項として、①戦争生活の徹底的な実践、②食料の非常増産、を掲げている。①では、決戦下の服装が定められ、配給申請人数の申告を正確に行うようにとしている。②では、食料を輸入に頼らず国内で賄うため、増産方法が具体的に示されている。なお表紙には、国民服や婦人の作業・活動用であるモンペ風のものをはじめとする、定められた服装をマネキンが着用した写真が掲載されている。

回覧印をおす欄が表紙にあり、大阪府内の各町内で回覧されたようである。



23. 大阪府宗教団体鉱山勤労報国隊名簿
1943（昭和 18）年 9 月 1 日
大阪教区満泉寺蔵

1943（昭和 18）年 9 月 1 日に結成された、大阪府宗教団体鉱山勤労報国隊の名簿。福岡県の鉱山における採炭業務のため、大阪府の宗教団体、鉱山勤労報国隊を結成し、60 日間合計 300 名が出動した。真宗大谷派からは 33 名が三菱鉱業飯塚（現・福岡県飯塚市）へ派遣された。満泉寺（現・大阪府貝塚市、真宗大谷派）の長谷一成も国民勤労報国隊としての協力が課せられた。

IV. 戦争する社会と真宗大谷派

国家や地域社会において戦争動員体制が整えられていくなかで、真宗大谷派をはじめとする宗教教団は、「皇恩を重んじ護国のために命をなげうつ生き方」を国民のあるべき姿として、宗祖の教えにはない教えを人々に説いていった。宗門の命である教えを歪めて、国民を思想の面から戦争に送る役割を果たした。

私たちは、真宗大谷派が国家や社会に同調することで戦争へ向かって歩んでいった「宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまないことを決意」した「不戦決議」(1995年)での「不戦の誓い」に立ち返り、宗門近代史を検証し続けなければならない。



25. 同朋箴規

『真宗』1937(昭和12)年5月号

1937年4月15日立教開宗記念日に際し、「國家多端教界また多事のときに当たり弘く真俗二諦の宗義を宣布して皇運を扶翼す国恩に酬答し給はんがため」、真宗門徒の生活規範として「同朋箴規」を制定した。箴規の「箴」は針の意。「箴規」とは、いましめ、またはいましめ正すこと。

同年7月7日に日中戦争が勃発。戦争を遂行するための真宗門徒の生活規範となった。



26. 仏具の供出

大垣教区光慶寺蔵

1941(昭和16)年8月、金属回収令が出された。各家庭からは鍋、釜、火鉢等を供出した。寺院も例外ではなく、金属製の仏具を供出した。それらは、戦争のための道具として利用された。

1942(昭和17)年岐阜県池田町の温知小学校講堂において、寺院から集められた仏具の供出を前に、法要が勤められた。正面には「日の丸」と本尊が重ねて掲げられている。左上には、二重橋の写真、右上には戦没者と思われる写真が掲示されている。



27. 真宗大谷派相続講員之章・バッジ

昭和某年 5月 1日

解放運動推進本部蔵(大垣教区福円寺史料)

福円寺(現・岐阜県揖斐郡揖斐川町、真宗大谷派)住職の廣瀬無蓋が昭和某年5月1日、真宗大谷派相続講の通常講員に2口加入した「講員之章」とバッヂ。相続講は1885(明治18)年、東本願寺の負債返却と両堂再建のために開設された。「講員之章」の裏面には、1927(昭和2)年3月28日付で、東本願寺24代闡如上人(大谷光暢、1903~93、在職1925~93)による相続講趣旨三ヶ条が書かれている。第三条には「皇恩を重んじ國法に遵ひ人倫を素らす家業を怠るへからざる事」とあり、天皇制国家へ追随した宗門のあり方が示されている。バッヂの表面には「揖斐久瀬村外津汲、廣瀬」とある。



28. 奉公袋

年不詳

解放運動推進本部蔵(大垣教区福円寺史料)

福円寺(岐阜県揖斐郡揖斐川町、真宗大谷派)に旧蔵されていた奉公袋。帝国在郷軍人会の久瀬村分会からの貸与品で、出征の際、あるいは出征に備えて、召集令状や卒業証書といった身分証明するための書類や貯金通牒、また出征時に最低限必要な日用品などを入れた。

29.『皇民護国読本』第2篇

1944(昭和19)年4月5日

解放運動推進本部蔵(大垣教区福円寺史料)

真宗大谷派教学局編『皇民護国読本』第2編。先立って出版された同書第1編では、護国の教である仏法によって、皇民としての道を行く者の心構えが説かれ、さらに護国の道を成し遂げて真に力強い働きをなすには、死生についての覚悟が重要であるとして、皇恩に報いるために生死を忘れて尽忠報国するようにと述べている。

非戦決議2015

私たちは過去において、大日本帝国の名の下に、世界の人々、とりわけアジア諸国の人たちに、言語に絶する惨禍をもたらし、佛法の名を借りて、将来ある青年たちを死地に赴かしめ、言いしれぬ苦難を強いたことを、深く懺悔するものであります。

この懺悔の思念を旨として、私たちは、人間のいのちを軽んじ、他を抹殺して愧じることのない、すべての戦闘行為を否定し、さらに賜った信心の智慧をもって、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまないことを決意して、ここに「不戦の誓い」を表明するものであります。

さらに私たちは、かつて安穏なる世を願い、四海同朋への慈しみを説いたために、非国民とされ、宗門からさえ見捨てられた人々に対し、心からなる許しを乞うとともに、今日世界各地において不戦平和への願いに促されて、その実現に身を捧げておられるあらゆる心ある人々に、深甚の敬意を表するものであります。

私たちは、民族・言語・文化・宗教の相違を越えて、戦争を許さない、豊かで平和な国際社会の建設にむけて、すべての人々と歩みをともにすることを誓うものであります。

『不戦決議』(1995年)

戦後50年を経た1995年6月、真宗大谷派は、人類の願いを「不戦の誓い」として表現しました。

私たちは、この決議の重みを再確認し、あらためて平和の意味を問いたいと思います。

決議より20年、戦争の悲惨さと愚かさに対する人々の感覚は風化してきています。その風化は、現在も、基地問題で苦しむ沖縄の人たちの心に向き合おうとせず、戦争に向かう状況を生み出そうとしています。

私たち人間の生きざまを憐れんで「国に地獄・餓鬼・畜生あらば、正覚を取らじ」と誓い、法藏菩薩は、浄土を建立されました。

永い人類の歴史は、人が人を殺し、傷つけ合う悲しみの連続がありました。如来の願心は、自我愛を正当化して「賜たいのち」を奪い合うことを悲しみ、私たちは「共に生きよ」と呼びかけておられます。

この呼びかけに応じ、「殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」という仏陀の言葉を如来の悲願と受け取り、あらためてここに「非戦の誓い」を表明いたします。

そして、世界の人々と積極的な対話を通じて「真の平和」を希求してまいります。

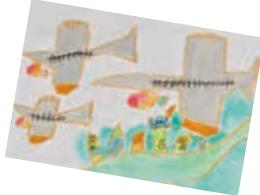
上記決議いたします。

2015年6月9日

真宗大谷派 宗議会議員一同

2015年6月10日

真宗大谷派 参議会議員一同



ひょうがむよう
「兵戈無用」兵隊も武器もいらない
仏説無量寿經の願いの世界を仰ぎ
過去の戦争を忘れず
未来に平和な社会を残したい
そして今、私たちに何ができるのか



「園児が描いた平和」（高倉幼稚園・大谷保育園園児の絵画）